丹波市 地域おこし協力隊

地域おこし協力隊の活動を報告します

市内で活動する大学の支援に取り組む

鈴江 瞭平（りょうへい）さん vol.52

経歴：徳島県出身。東京の商社が北海道で運営する牧場で乳牛や羊の飼育を担当。羊の飼育と丹波栗生産の両立を志し、丹波市へ移住。
任期：令和５年４月～

初めまして、４月から地域おこし協力隊として活動している鈴江瞭平と申します。私は丹波栗へのあこがれをきっかけに丹波市にやってきました。現在は青垣町に住んでいます。これまで縁もゆかりもなく不安なこともありましたが、地域の方々の助けを借りながら楽しく暮らしています。

以前は北海道の牧場で羊と乳牛を飼う仕事をしていました。将来は丹波市で羊・丹波栗農家として暮らしたいと思っています。

協力隊としては市内で活動する大学と地域の連携推進を目的に活動しています。大学との連携を通じて、学生が丹波市を訪れ、体験活動をすることにより、地域をより深く知る人が増えることにつながります。地域に新しい視点や力が入ることは、丹波市が持続し、さらに盛り上がっていくエネルギーになると思っています。具体的な活動内容として、丹波市で大学の研究やフィールドワークが積極的にできるよう、近隣の大学への窓口となり各地域の紹介や仲介、ローカルな情報提供といった環境づくりをしていくつもりです。

まだまだ地域のことを勉強中です。身の回りのこと、課題や面白いことなどなんでも教えていただけるととても嬉しいです。活動や交流を通して地域の方々も丹波市の魅力を再発見し、さらに多くの人に知ってもらえるようこれから精一杯取り組みますので、どうぞよろしくお願いします。

子羊の世話をする鈴江さん

市長・林時彦の

時を駆ける

商工業への支援

新型コロナウイルス感染症の発生以来、３年以上にわたり、行動制限などの様々な制約がある中での生活が続きました。５月８日以降は、新型コロナウイルス感染症の感染症法に基づく位置づけが５類感染症に移行され、ようやくコロナ禍前の活気が取り戻せると期待しております。

今後は、社会経済活動も正常に回復していくことを願いますが、依然として続くエネルギー価格や物価高騰の影響により厳しい状況が続いております。

丹波市におきましても、今後も経済の動向を注視しながら、さらなる商工振興、ひいては産業の振興に向けて引き続き取り組んで参りますので、ご理解とご協力をお願いします。

さて、私がめざす「帰って来いよ」と言えるまちづくりを着実に進めていくために、企業に元気をもたらす取り組みとして、「人材確保」や「スタートアップ」への支援に注力していきます。「人材確保」に対しては、若手人材不足が大きな課題となっている中、これまでの取り組みを地道に継続するとともに、新たに「就職支援ポータルサイト」の構築や働きやすい労働環境を整備するための「仕事と家庭の両立支援休暇取得奨励金」を創設し、市内企業が安定して経済活動を維持できるよう支援して参ります。

また、現在も起業を目指す多くの方にご利用いただいております「Ｂｉｚステーションたんば」を通じ、起業時における事業運営や販路開拓、商品開発などに関する専門家の相談体制を充実させるなど「スタートアップ」の支援を強化して参ります。

丹波市長 林 時彦

高校生向け企業説明会であいさつする林市長